

★漢方あれこれ★

◆気血水◆ 「水」のはなし

太田 順康

水について

人間の身体のうち70%は水でできています。従ってこの水分の流れが不調になると病気になります。

体液のうち「血」を除いたものを云います。

身体に必要な生理的な水を津液と云います。

流れが悪くなって何処かに溜ってしまった病的な水を飲、痰といつて病気の原因や身体の変調を指します。

この水の変調には、出入の変調と水分の過不足や偏在とがあります。

i 水の出入りの変調

唾液、胃液、気管枝粘液、漿液、汗、小便、大便中の水分の変化、口渴、不渴など。

ii 水の過不足及び偏在 (組織液の過不足、偏在)

不足＝津液不足、所謂脱水症状。

水分が何処かに偏在している。

・細胞にたまるとう腫になります。

・消化管などに溜った水が悪さをすることを、漢方医学では痰飲、懸飲、溢飲、支飲、伏飲など呼んでいます。水の変調が起きると次のような症状があらわれます。

・身体の表面、皮膚や肌起きると、多汗、浮腫、身体が重だるい、力が入らない、神経痛、関節痛、皮膚の下がムズムズする蟻走感など。

・身体の内部、消化管に起きると、胃部拍水音、嘔吐、唾液過多、喘鳴、咳、下痢、尿量の変化などが現れます。その他口渴、不渴、動悸、抽搐(目の縁や脛がピクピク痙攣する)、頭痛、眩暈、耳鳴、冷え、歯痕舌(舌の縁がギザギザと歯の痕がつく)等も水の変調として現れる症状です。中には頭痛のように「気」「血」の変調でも起きるものもありますので要注意です。主として水の変調に使われる生薬を水剤として次のようなものがあります。

吸湿性のある生薬 茯苓、猪苓、半夏、など

通水性のある生薬 木通、防己、麻黄、など

湿地・水辺にある生薬 沢瀉、朮、牡蠣、など

水の変動に応用される薬方は次のようなものがあります。

津液不足になっている場合

No.3 4 白虎加人参湯、No.1 2 6 麻子仁丸料、No.4 8 十全大補湯などがあります。皮膚がカサカサしたり、便がコロコロになったりします。皮膚が乾いたりします。

浮腫など水の偏在がある場合

No.2 0 防己黄耆湯、No.2 8 越婢加朮湯、No.3 0 真武湯、No.3 6 木防己湯などがあります。ア

新刊!

太田先生の
「くらしの
薬草と漢方薬」

ハーブ・民間薬・生薬

B5版・総頁382頁

価格 3,300円+税



新日本法規出版

お知
らせ



すこやか教室 山歩き

☆寒くなってきました。松尾池の紅葉は見頃です。カメラマンたちが他県からも訪れています。おしどりたちも姿を見せています。

5日(金) 12日(金) 19日(金) 26日(金)
12, 19日は休診日ですが、すこやか教室は行います。

§ 漢方相談日

(担当 太田順康：日本漢方交流会認定漢方終身師範、岐阜県漢方研究会会長、岐阜薬科大学「漢方学」講師)

今月の漢方相談日は、下記のようにです。

1日(月) 8日(月) 25日(木)

§ 12月の休診日

11日(木) 12日(金) 15日(月) 18日(木) 19日(金)
・12/29～1/5まで年末年始休業となります。

§ 今年度のまめくら、すこやか健診は11月で終了いたしました。年一回定期的な健診は、身体とこころのチェックです。健康状態を知って、元気に過ごしましょう。

消化管などに偏在して痰飲とか胃内停水になっている場合、No.1 7 五苓散、No.3 2 人参湯、No.6 9 茯苓飲、

No.3 9 苓桂朮湯、No.1 9 小青竜湯などがあります。外邪(風、寒、湿、暑、熱など)と云われています)と一緒に入り込む。風湿、風水(神経痛、リウマチなど)と云われるものNo.7 8 麻杏薤甘湯、No.1 8 桂枝加朮附湯、などがあります。

中国の中心黄土地帯、漢方医学の起こった場所(北京周辺)に比べると日本は湿度の多い気候ですので水の変調が多く現れるようです。

従って水の代謝を調節する薬方が多く使われます。

(つづく)